

ひまわりの声 No.13

題字：高森政雄前区連会会長

編集・発行 港南区連合町内会長連絡協議会

向こう三軒両隣！ご近所の絆が大切です！

昭和63年から港南区と相互交流を行っている、宮城県大崎市（旧三本木町）が今年9月11日渋井川の決壊により、大きな被害を受けました。区連会と区ひまわり交流協会、区役所からの呼びかけに対し、区民の皆さまから多くの義援金のご協力をいただきましたこと、厚く御礼申し上げます。

記録的な大雨にもかかわらず、大崎市の人的被害は軽傷者2名だけだったと伺い、日頃からの備えと、隣近所との関係づくりがいかに大切かを痛感しました。

港南区においては、各地域で積極的に防災・減災の取組を推進しておりますが、防災に関する取組に終わりはありません。発災時にどのように行動すれば良いか、各家庭で話し合い、考えておく必要があります。

ぜひ、ご近所（近助）で助け合い、「向こう三軒両隣」でお互いさまの関係を築いていただきたいと思います。私たち区連会も、地域の安全と安心を守るために皆様と一緒に活動を進めてまいります。

区連会では、港南区を良き「ふるさと」にし、次世代に引き継いでいくため、地域で活動する様々な団体、区役所等の行政と一緒に「協働による地域づくり」を進めています。今後の超高齢社会を見据えると、特に



区連会、地区連合町内会は、区社会福祉協議会、地区社会福祉協議会と車の両輪のように、互助の精神を一層深めていかなければなりません。

今住んでいる地域を大切に、そして、そこで暮らす人々がみんな仲良く、楽しく、無理をせずに協力し合って、「この地域に住んで良かった」と思われる地域になるよう、取組を進めてまいりますので、御支援・御協力をお願いします。

港南区連合町内会長連絡協議会会長 藤田 誠治 よしはる

新地区連合町内会長紹介

27年度、地区連合町内会長になられたお二人です

日野南連合自治会長 上田 昭則



私たちの地区は港南区の南端で、1970年以降に開発された戸建中心の住宅地です。

3自治会、1,500世帯強の小規模な地区連合ですが、まとまりも良く、また防災・防犯・福祉等に参加される方々も多い住み良い地区と自負しています。

その一方で、区内で最も高齢化が進んだ地区でもあります。現在、検討中の「第3期地域福祉保健計画」では、この点が大きなポイントとなっておりますが、良い地域環境を維持し、高齢化進展という現実を踏まえた計画を地区の皆さんと協力してまとめていきたいと思ひます。

永谷連合町内会長 井出 恵章 しげあき



永谷地区は9自治会町内会、約5,500世帯が加入し、小中学校が6校、地域防災拠点6箇所ある坂の多い地域です。

「なが〜く住みたい ながや」をテーマ（目標）に、地区連合と地区社協が協力し、関係団体と連携しながら、活動しています。

時代とともに変化する地域ニーズに対応する方策を検討、実施することは永遠の課題です。地域の様々な団体が縦・横・斜めにつながり、「ここに住んでよかった」と思われるまちにしていくという意思を次の担い手に引き継いでいきたいと思ひます。

イザという時、役に立つのは「地域の絆」

災害時に備え、地域ぐるみで防災・減災活動に取り組んでいます！

防災5箇条

- 話し合おう！…家族の連絡どうするの？
- 備えよう！…最低でも、食料・飲み水3日分
- 圧死から身を守ろう！…家具の転倒防止と耐震対策
- 避難時は、電気・ガスの元栓切って！
- 地震だ！…となり近所に声かけて、まずは「いっつき避難場所」

日野南連合自治会

日野南連合自治会（日野南小地域防災拠点運営委員会）では、災害時に備え、日野南地区独自の取組として、「助け合いグループ」、「災害時協力員」という災害対応の体制を整備しています。

独自の災害対応の仕組み

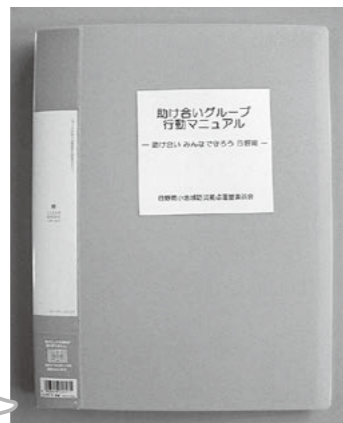
<助け合いグループ>

地域の防災・減災活動の要として、自治会の班をもとに4～8世帯毎に分割し、「助け合いグループ」という小グループを設置しています。

災害発生時には、いっつき避難場所に集合する前に、助け合いグループで設定している「グループ集合場所」に集まり、安否確認を行います。

ご近所同士の小さなグループにすることで、より正確な安否情報を得ることができます。

助け合いグループは、災害時に役立つだけでなく、日頃からご近所で助け合う、お互いさまの関係を培うキッカケの一つになっています。



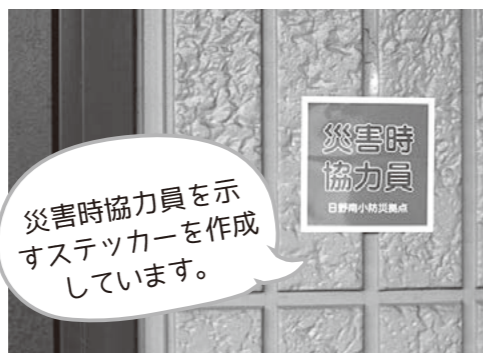
「助け合いグループ」に配布している行動マニュアル。災害時の行動基準や平時の備え、地区の防災マップなど、様々な情報を一冊のファイルにまとめています。

<災害時協力員>

東日本大震災が発生した際、地区の災害対応の中心となる「地域防災拠点運営委員会」委員のうち、地域に残っていたのは全体の約3分の2でした。

この経験から、災害発生時に迅速に対応するためには、委員会のメンバーでなくても、地域で活動できる人が必要だと考え、「災害時協力員」という登録制度を設置しました。

現在は130名の登録があり、発災後すぐに対応にあたるよう体制を整えています。



災害時協力員を示すステッカーを作成しています。

区内の各地区では、それぞれの地域の特性に応じて、積極的に防災・減災の取組が進められています。今回は、その一部をご紹介します。

芹が谷台自治会・黄金苑自治会

芹が谷地区の区域は、道路が非常に狭く、災害発生時に消防車が現場まで入ることが難しい地域です。地域の力で被害を最小限に抑えようという思いから、新たに可動式の「スタンドパイプ式初期消火器具」を用いた防災訓練を実施しました。

スタンドパイプ式初期消火器具を用いた訓練

「スタンドパイプ式初期消火器具」は移動可能であることに加え、誰でも容易に操作ができるように工夫がされています。

消防署の方に操作方法を教してもらいながら、訓練を実施しました。



芹が谷台自治会▶



▲黄金苑自治会

初めて扱う初期消火器具に戸惑うこともありましたが、訓練は無事に終了。

災害時に落ち着いて行動するためには、今回実施したような訓練の積み重ねが重要です。

訓練終了後の反省会では、「いざという時に備えて、継続して訓練を行い、みんなが消火器具の操作方法を覚えるしかない」という意見でまとまりました。

下永谷連合町内会

地区の話し合いの中で、「下永谷地区の防災マップを作ろう！」という声があがったことから、下永谷連合町内会が中心となり、自治会町内会や地区社会福祉協議会、委嘱団体など、地域で活動している団体が一体となってマップづくりに取り組みました。

地域防災マップの作成



マップの作成が決まった後、地図に記載する内容を話し合うための意見交換会を開催しました。

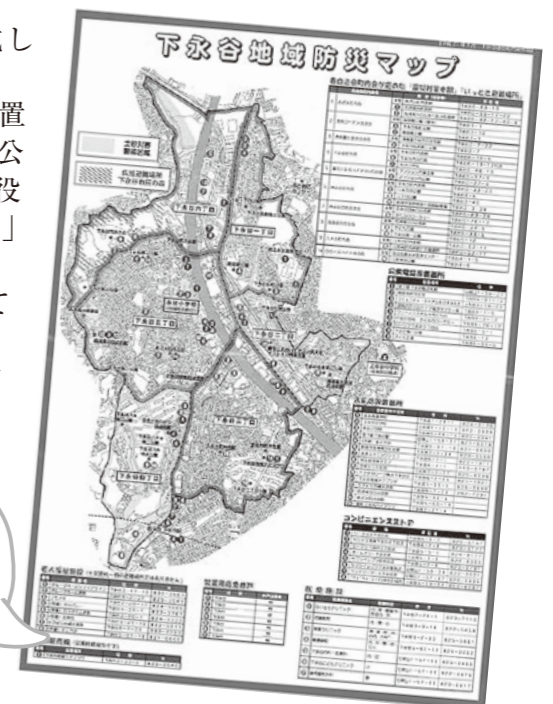
「実際に災害が起きた時に役立つ情報は何か」、「どのようなことがマップに盛り込まれていると良いか」など、参加者みんなでアイデアを出し合いました。

何度も話し合いを重ね、完成した「下永谷地域防災マップ」。

いっつき避難場所やAED設置場所、コンビニエンスストア、公衆電話設置箇所など、災害時に役立つ情報を盛り込み、「保存版」として各世帯に配布しました。

地域の各団体が一体となってマップ作りに取り組んだことで、地域全体の防災への意識が高まったと実感しています。

マップの裏面には、防災5箇条や災害用伝言ダイヤルの取り扱いなどが掲載されています。



港南区によろこそ

港南警察署
廣瀬 豊 署長
安全で安心して
暮らせるように



港南警察署に赴任して、早8か月が経ちました。

区連会の会議においては、各地区連合町内会と区役所が「協働による地域づくり」を真剣に考えている印象を受けました。また、それを裏打ちするかのよう各各地区で催されているイベント等の盛り上がりを感じております。

また、悪天候でも子どもの通学時間帯に街角に立って見守り活動を行い、子どもたちに声をかけてくださっている方々には頭が下がるばかりです。

港南警察署は皆様が安全で安心して暮らせるように、日夜活動を行っておりますが、地域の皆様と連携を深めることによって、より効果的な対策を講じることが出来ますので、引き続き御理解と御協力をお願いいたします。

港南消防署
名取 正暁 署長
「つながり」が
大きな支えになる



本年4月に22代目の署長となりました。日頃から消防・防災行政に対し、深い御理解と御協力をいただき、御礼申し上げます。

近年、自然災害発生の頻度が高まる中、9月には、台風の影響による豪雨で、鬼怒川など複数の堤防が決壊し、甚大な被害をもたらしました。大規模地震をはじめ、自然災害の発生を防ぐことはできませんが、地域の「つながり」や、日頃からの声掛けや見守り活動が「大きな備え」となり、被害を最小限にすることができると思っております。

港南消防署も、地域との「つながり」を大切に火災や救急の対応のほか、危惧される自然災害に対しても、全力を尽くしてまいりますので、よろしくをお願いいたします。

区連会へのエール ～退任された地区連合町内会長より～



永谷連合町内会
前会長 遠藤 良一

平成27年度総会において、8年間務めた永谷連合町内会長を退任しました。区連会の皆様には大変お世話になりました。

近年、社会状況や環境の変化に伴い、各地で様々な事件や事故が発生しています。未来ある子どもたちのために、警察や学校、地域住民、区役所などが密に情報交換を行い、一体となって安全で安心なまちを築いていくことが、地域の務めだと考えています。

区連会においても、犯罪のないまちを目指して、より一層取組を推進していただきたいと思います。今後ともよろしくをお願いいたします。

日野南連合自治会
前会長 淡路 伸勝



今年春に9年間お世話になった区連会を卒業しました。地域に戻って感じたことは、区連会の認知度が地域の中では未だに低いということです。認知度を高めるためには、地区連合町内会の活動をもっと周知することが必要です。

現在、各地区では第3期地域福祉保健計画の検討が進められています。各地区での検討の際には、地区連合町内会がその中心となって課題を発掘し、実行案をまとめていってほしいと思います。

区連会での経験、特に高森顧問から頂いた数々の教えを教訓として、これからも頑張ります。

ひまわりの声では、港南区連合町内会長連絡協議会を「区連会または港南区連会」と記載しています。

編集
後記

■近年、台風や大雨などの災害が多発し、各地で大きな被害が出ています。
本号は、防災・減災のために地域が一体となって進めている取組の一部を紹介しました。ぜひ一読ください。

■区連会会報担当
中島淑子／武田信雄
編集委員
松田英樹／筒井英子
横浜市港南区港南中央通10-1
港南区役所地域振興課内
☎847-8391 FAX842-8193

■本紙および区連会へのご意見・ご要望は区連会事務局までお寄せください。

区連会ホームページで情報発信

港南区連合町内会 検索